

2023年度

【学校推薦型選抜〈併願型〉(1日目)】

基礎素養検査

2 限 目

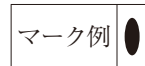
注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 不正行為を行った場合は、本学の選抜日程全ての成績を無効とします。
3. 問題冊子は1部、解答用紙は2枚です。なお、解答用紙は、「国語」用の『解答用紙①』と「理科」用の『解答用紙②』の2種類があります。解答用紙は、試験終了後に2枚とも提出いただきますので、2枚ともに受験番号欄に記入およびマークしてください。
4. 出題科目、ページおよび選択方法は、下表のとおりです。

出題科目		ページ	選択方法
理科※	物理基礎	1～3	解答科目は、選択できる科目を受験票で確認のうえ、選択しなさい。
	化学基礎	5～10	
	生物基礎	11～14	
国語	国語1～国語12(うしろから始まります)		

※理科については、「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」から2科目選択し、解答してください。解答する科目の順番は問いません。解答時間(60分)の配分は自由です。

5. 解答は全てマークセンス方式です。マークは黒鉛筆(シャープペンシル可)で右の例のように正しくマークしてください。



6. 解答用紙には解答欄のほかに次の記入欄があります。

(1) 受験番号欄

『解答用紙①』および『解答用紙②』の2枚ともに、受験番号を受験番号欄の上欄に算用数字で記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。

(2) 解答科目選択欄

①「国語」を解答される方

『解答用紙①』の解答科目選択欄について、「解答をする」のマーク欄にマークするとともに、解答する科目を○で囲み、さらにその下のマーク欄にマークしてください。

②「理科」を解答される方

『解答用紙②』の解答科目選択欄について、「解答をする」のマーク欄にマークするとともに、解答する科目(2科目)を○で囲み、さらにその下のマーク欄にマークしてください。

※受験番号および解答した科目が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

7. 記入したマークを訂正する場合は、プラスチック製消しゴムで完全に消し、改めてマークしてください(消しくずを残さないこと)。
8. 解答用紙は折り曲げたり、汚したりしてはいけません。
9. 解答用紙の※印欄はマークしてはいけません。
10. 問題冊子と解答用紙にページの落丁・乱丁および印刷の不鮮明な箇所や汚れなどがある場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
11. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

国語

(解答番号

(1)

(47)

I 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(六〇点)

私は「思考」は曖昧な I だと思うようになった。言葉に複数の意味が含まれているために、対象の考察が難しくなることはよくある。「思考」という言葉はまさにそうした類の言葉にあたるのではないだろうか。

そこで以下に「考える」という概念のモデルを、比喩的にこしらえてみる。

十分な知性と感受性を持った子どもが、レゴブロックで組立てられたおもちゃのパーツを一万も与えられたと夢想してみよう。そのパーツは、あるいは木であり、動物であり、人間であり、家であり、線路であり、自動車であり、飛行機であったとする。

彼が最初にする¹ことは、与えられた部品で彼の世界を作ることだ。彼は家の中に人間と動物を配置したり、いくつかの電車を線路の上に置いたり、想像力のおもむく¹がままにそれらのパーツを組み合わせて遊ぶ。

そこには、想像力で世界を組み立てる心地良さがあるし、「こう組み合わせると楽しい」、「色のついた家を並べるときれいだ」などの発見もあろう。家の背後に木を配置して、上で飛行機を飛ばすと面白いなど組み合わせはいくらかも生まれうるし、もしかしたら、お気に入り^Aの組み合わせパターンに規則性が見出されるかもしれない。これも思考である。

しかし、ある日遊んでいるうちに、子どもはおもちゃを落として壊してしまった……レゴブロックはばらばらになった。

²これは大発見だった。その子どもは、おもちゃは実はさらに小さな II パーツである、基本的な単位に分割されることを知ったのだ。

これは新しい可能性の発見だった。より微視的なパーツの発見は、新しい想像力を生み、組み合わせのアイデアの数^Aを増加させる。基本的なパーツ(ブロック)の性質を見極めれば、与えられた木なり家なりといったキセイの部品以外も発明できるかもしれない。

また、子どもはそのまま基本的な単位だとばかり思い込んでいた部品より基本的なパーツが発見されたことに驚いて、その深い規則性を探究することで、さらなる新しいパーツの探求を試みるかもしれない。

この新しい微視的な世界の発見は、子どもを今までアタリマエに感じていた世界から引き離し、この世が実は何から成り立っているのかという

IV

興味をかきたて、世界を認識する情熱へと駆り立てるだろう。

子どもはただ

V

遊ぶ楽園から追放された。以後彼は、

- ① 微視的な世界を認識し、そこに規則的な秩序を見出し、今までの世界を根底から VI ような新しい世界を生む可能性を探ると同時に、
② 新しく発見されたより基本的なパーツを組み立てるアイデアを生み出そうと試みる

わけである。こうして子どもは日常的世界から離れて、分析的な世界と構築的なアイデアの世界へといたるのである。

³ この比喩は、科学の発展過程の説明にも、言語習得という人間の学習にとって極めて重要な過程の比喩にもなる。

私たちの祖先は、古代からいろいろな文化を作ってきた。しかし、多くの場合、その思考方法は、現実に対応するためのモデルを作る思考であり、さほど分析的ではなかった。

しかし、力、空間、時間といったより

VII

基本的なパーツが発見されると、それらのパーツの性質が探究されて物理学が生まれ、物質が元

素という一見ただけではわからない微視的なパーツに分解されることがわかると、その性質を探究する化学が発展した。

私たちは母国語を習うのに、まず文法書から出発するわけでもなければ、難しい文学書や哲学書を読むことから始めるわけでもない。

私たちはまず、親の言葉を聞いて何となく意味を理解し、自分でも言葉を発することではなく構文を習得し、絵本から始めて本を読んでいくことで
なんとなく説明の仕方や、情報の伝達の仕方や比喩を学び、熟達のためにはそれらを「論理的に納得する」のではなく、「訓練」を積み重ねる。

A

、自分にとってなんとなく当たり前前思える言語世界（モデル）が形成されてはじめて、文法という分析的な道具も理解でき、自分の思考も表現できるようになる。

実はこれは私が教えている数学の世界でも同様で、小学生に初めから基礎論的な原理を教えるようになるものではない。小学生はまず、計算規則を理解するといよりB タンレンによって習得し、日常言語的な比喩によってその応用的な使い方を学び、そうした積み重ねの結果各自の中に築き上げられるいわば「アタリマエ世界」に即して、問題を解こうとする。

こうしたアタリマエ世界の形成の後に初めて、論理的な分析や、面白いアイデアの世界がわかるようになるのであって、この順序は決して逆にはできない。
⁴ こんなことを漫然と考えていたとき、私はある日、バートランド・ラッセル卿が啓蒙書として書いた『数理哲学序説』の次の一節に目をとめた。

そこにはこう書かれていたのである。

「非常に遠くも近くもなく、また非常に小さくもなく大きくもないものが一番見易いように、論理的に複雑でもなく単純でもない概念が最も理解しやすい。従って数学の中で一番明白であり一番やさしい事柄は、論理的演繹の順序で一番最初にくるものではなく、むしろその中間にくるものである。また、視力を拡大するのに顕微鏡と望遠鏡とが必要であるように、論理的能力を拡張するにも二つの道具が必要である。その一つはわれわれを高等数学の領域に導くものであり、他の一つは通常の数学がその基礎として仮定している事柄の論理的な基礎を穿鑿するものである（岩波文庫『数理哲学序説』ラッセルより引用）」

こうして彼は、アイデアを核として法則性を探究し**ソウレイ**な建築物を作っていくような数学における望遠鏡的な世界と、当時「数学基礎論」と呼ばれた、数学に論理的な基礎付けを与えようとする顕微鏡的な世界とを比喩的に説明したのである。

これは卓見⁵であると思ふ。ラッセルは、遠くも近くもなく見やすい日常的な世界と、分析的で基礎的で微視的な顕微鏡的世界と、アイデアを中心に建築物を構成していく巨視的な世界と、この三つを鮮やかに比喩的に取り出して見せたのだ。

そしてラッセル氏の意図に沿うかどうかはわからないが、私はそもそも「思考」はこれら三つの、すなわち日常的なモデル・比喩的な思考をまず前提とした上で、顕微鏡的な分析的思考と、構成物を作るためにアイデアを生み出すといういわば望遠鏡的な世界とに分かれているのではないかと考えているのである。

これが私の「思考」についての考え方である。

そこで次に、これら三つの思考の特徴を説明してみよう。

高校の先生たちと話をする機会があった。酒の席だから話は愚痴めいてもくる。

「近頃の先生は大変ですね。学校もいわばカンリョウ組織化して、教師もコマの扱いをされて学校に温情を感じませんものね」と話を向けると、つい乗ってしまった一人の先生が、「そうなんですよ。だから、私も生徒に温情が持てないのです……」と

B、家に帰って小学生の息子にその話をすると、「そりゃ、ヤツアタリだろ」とその先生に批判的な様子。そこで、私もつい、息子に教育をする気になってしまった。

「そうだな。たしかにヤツアタリだ。でも、そんな例は多いよ。いわば、こういう構図だな。強くて力をもったやつがいる。これをAとしよう。この場

合、Aは学校組織だ。そのAがBを支配する。Bは愚痴をこぼした先生にあたる。ところが、Bは本来向けるべき矛先を、Aには向けずにCに向ける。それが生徒だな。おまえがいうように生徒(C)は、この行為をヤツアタリと感じるだろう。ただ、彼らの矛先は本来の原因である学校組織には行かずに、この先生に反抗したり不満を感じたりするだろうね。つまり、強者Aに対しBとCは直接には反抗しない。かえって相互にヤツアタリを繰り返し、結果としてAの支配はアンタ^Eイに保たれる。もしかしたら、そんな構図がこの話には隠れてるかもよ」

C 息子は考え出した。(しめしめ?)

「俺のクラスのXは、暴力的なんだよな。あいつの手下は逆らえないから……おつ。いえてるかもしれない。俺のクラスでも同じようなことが起こってるかも……」

「もしかしらいたるところでそういうことが起こってるわけ? 国の場合はどうだろう。三国志の場合は……こりゃ同じくらいの力だからダメそうだな……じゃあ、いまの場合は?……一番強いアメリカがAにあたるんだろうな。すると……」

話が危険になってきたので以下はカットする。

こうして「ヤツアタリ論法」は、なんと「支配モデル」になってしまった。もちろん、こうしたモデルが有効である場合もそうでない場合もあるだろう。ただ、身近な経験から人間関係についてある種のモデルを作り、それをアナロジーの核としていろいろな事象に適用してみるという手法は、一つの大切な思考方法に思える。

実際、この「ヤツアタリ論法」を意識したとき私の脳裏に浮かん⁸だのは、たとえば次のような事柄だった。

イラク戦争で捕虜になり、服役したあるイラク人が、解放されたあとで、「何よりも辛かったのは、仲間だと思っていたイラク人に虐待されたことだ」と語った。同様なことが日本の敗戦後、シベリアの強制収容所でも起きている。「暁に祈る事件」では、捕虜から選抜され仲間を取り締まる役の兵隊が、ソ連兵の上役よりひどく仲間を虐待し、恨みを買った。虐待された仲間は帰国後、その人物を告発したのである。

『夜と霧』で有名なフランクル氏は、アウシュビッツの強制収容所でも、囚人たちの監視役に選抜されたユダヤ人が、時にドイツ人より仲間⁹に苛酷だったことを記している。

D、ある集団を取り締まる際、彼らの中に差別を設け、上位者に彼ら自身を取り締まらせると、彼ら自身が互いに恨みを抱く集団に分裂し、管理がうまくいくらしいのだ。

さて、「ヤツアタリ論法」も少し発展しすぎた気味があるが、読者の方に注意してもらいたいのは、ここではほとんど論理らしい論理がなく思考が発展していつていることだ。

身近な世界に見られる「ヤツアタリ」を観察すると、一つのモデルができる。そのモデルは、「強者Aが複数のBを支配するとき、B同士に内部分裂を作つて互いにヤツアタリさせるとAの支配が保たれやすい」という経験的に妥当な根拠をもち、多少は論理的説明も可能だが、それほど深い論理構造をもった思考が働いているわけではない。

この身近なモデルを、いろいろな場面にあてはめるとは、いわば現実に起こる事柄を「ヤツアタリの構図」とのアナロジーにおいて捉えているようなものである。

ところで、問題になるのは私たちが現実の世界で物事を判断していくときに、論理的につきつめた判断をするよりも、このような「モデル↓アナロジー」による捉え方をずっと頻繁に行っているのではないかということだ。

私たちはイソップ物語の「アリとキリギリス」「北風と太陽」のような枠組みで、いろいろな現実を見ていないだろうか？

そうした思考方法は、不平等を論じるときや、強力な相手をどうやって説得するかといった身近な問題解決の際に、モデルとしてすぐに意識されないだろうか？

E 「あいつはキリギリス（消費的享樂者）だったのだから、冬（老年期）になってお金に困っても助ける必要はない。公費で救ってしまったら一生懸命に働いていたアリに失礼ではないか」とか、北朝鮮に対する政策は「北風（武力）と太陽（支援）」とどちらが有効だろう」という議論にも、こうした IX モデル思考は常に働いているのだ。

そして、一番注意してほしいのは、小学生くらいのまだ年若い子どもの頃から、この種の「モデル↓アナロジー」的な思考方法はすでに働き出しているのに対し、論理的につめていく思考方法は子どものうちにはあまり発達していないということである。

こんなところからも、考えるという行為がまず論理から始まるのではなくて、どうやら「比喩」「モデル」「アナロジー」の大量な刷り込みと、その現実への適用から始まるということが見て取れるのである。

先ほどもいったとおり、私たちの思考は望遠鏡的構築や顕微鏡的分析以前の「中間」から始まる。そして、その「中間」ではまず基盤としてのアタリマエ世界の形成がなされる。その段階でなされるのは、おそらくは比喩的な能力、物事を想像力によってアナロジカルに見る能力を生かして、大量のモデルを撰取することなのである。

（栗田哲也『数学による思考のレッスン』より。ただし出題の都合上、表現を一部改めた箇所がある）

問一 二重傍線部A～Eのカタカナを漢字で書いたときに、その漢字と同じ漢字をふくむものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A ① ゲン|テン|カイ|キ

(1)

② ヤツ|キ|になる

③ キ|オウ|シ|ヨウ|を|尋|ね|る

④ キ|カイ|カイ|な|事|件

⑤ フ|ク|ム|キ|テ|イ

B ① タン|ゾ|ウ|用|の|機|械

(2)

② タン|セ|イ|な|顔|立|ち

③ タン|パ|ク|な|性|格

④ ゴ|ウ|タン|な|振|る|舞|い

⑤ タン|ネ|ン|な|仕|事

C ① 表紙のソウ|テ|イ

(3)

② ジョウ|ウ|キョウ|ソウ|ウ

③ 茶の湯のソウ|ウ|ケ

④ 弦楽シジュウ|ソウ|ウ

⑤ キャク|ソウ|に|合|わ|せ|た|品|ぞ|ろ|え

D ① アラ|リ|ヨウ|ジ

(4)

② イチ|モク|リ|ヨウ|ゼン

③ バク|リ|ヨウ|会|議

④ 新|入|生|が|ニ|ユウ|リ|ヨウ|スル

⑤ テン|ノ|ウ|リ|ヨウ|古|墳

E ① コウ|タイ|検|査

(5)

② シユウ|タイ|を|さ|ら|す

③ 道|路|の|ロ|ソク|タイ

④ その|道|の|タイ|ト

⑤ 繁|華|街|の|タイ|リ|ユウ|人|口

問二 空欄 I Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ Ⅵ Ⅶ Ⅷ Ⅸ Ⅹ に入れるのに最も適当なことを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | | | | | |
|---------|----------------------------|-----------|---------|----------------------------|----------|
| 空欄 I | ① 多義語 | ② 俗語 | ③ 同音異義語 | ④ 対義語 | ⑤ 美化語 |
| 空欄 II | ① 元素的な | ② 典型的な | ③ 多元的な | ④ 雛型的な <small>ひながた</small> | ⑤ 資源的な |
| 空欄 III | ① 幾何学的に | ② 飛躍的に | ③ 漸進的に | ④ 一時的に | ⑤ 急進的に |
| 空欄 IV | ① 根源的な | ② 逆説的な | ③ 一元的な | ④ 演繹的な | ⑤ 画一的な |
| 空欄 V | ① 幼心に | ② 一心に | ③ 無心に | ④ 執心に | ⑤ 細心に |
| 空欄 VI | ① 反故 <small>ほご</small> にする | ② 元も子もなくす | ③ 白紙に戻す | ④ 裏返す | ⑤ ひっくり返す |
| 空欄 VII | ① 象徴的で | ② 立体的で | ③ 感覚的で | ④ 帰納的で | ⑤ 抽象的で |
| 空欄 VIII | ① 口を割った | ② 口を合わせた | ③ 口を極めた | ④ 口を添えた | ⑤ 口を滑らせた |
| 空欄 IX | ① 因習的な | ② 画一的な | ③ 原初的な | ④ 革新的な | ⑤ 画期的な |

問三 傍線部1「おもむく」、傍線部4「漫然と」、傍線部5「卓見」、傍線部6「巨視的な」、傍線部8「私の脳裏に浮かんだ」、傍線部9「刷り込み」の

本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | | | | | |
|------|---------------|---------------|-------------|------------|----------|
| 傍線部1 | ① 命じる | ② 高まる | ③ 生じる | ④ 向かう | ⑤ 変化する |
| 傍線部4 | ① いつものように | ② 何回も繰り返し | ③ いろいろな角度から | | |
| 傍線部5 | ④ 時間をかけてじっくりと | ⑤ はっきりした目的もなく | | | |
| 傍線部6 | ① 突拍子もない意見 | ② 優れた意見 | ③ 珍しい意見 | ④ 今でも通じる意見 | ⑤ 決定的な意見 |
| 傍線部8 | ④ 最終的な目的を意識した | ⑤ 細かな違いを無視した | | | |
| 傍線部9 | ① 私が生じた | ③ 私が生じた | ④ 私が生じた | ⑤ 私が生じた | |
| | ② 私が生じた | ④ 私が生じた | ⑤ 私が生じた | | |
| | ③ 私が生じた | ⑤ 私が生じた | | | |
| | ④ 私が生じた | | | | |

問四 傍線部2「これは新しい可能性の発見だった」とあるが、子どもはどのようなことを発見したのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① レゴブロックで組み立てられた家や木などのおもちゃのパーツが、さらに基本的なパーツに分割される可能性。
- ② それまでより基本的なパーツから新たなパーツを作ったり、パーツの規則性を見出し、新たなパーツを作ったりする可能性。
- ③ 今までアタリマエだと思っていた世界が、実はアタリマエではなく、それを作り出す規則的な秩序がある可能性。
- ④ レゴブロックの基本的なパーツの組み合わせだけでなく、基本的なパーツ自体も、深い規則性によって構成されている可能性。
- ⑤ おもちゃに限らず、身の回りの世界にあるものを分析的に見ることで、新しいアイデアを生み出す可能性。

(21)

問五 傍線部3「この比喩は……極めて重要な過程の比喩にもなる」とあるが、筆者は「この比喩」をもとに、どのようなことを述べているか。その説明として、不適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(22)

- ① 論理的な分析や、おもしろいアイデアの世界がわかるようになるのは、アタリマエ世界を形成した後である。
- ② 力、空間、時間を発見し、その性質の探求から物理学が生まれ、物質を構成する元素の性質を探求する化学が発展した。
- ③ 小学生は、訓練を通して計算規則を覚え、比喩を通して応用的な使い方を学び、アタリマエ世界に即して問題を解こうとする。
- ④ 子どもは、親の言葉を聞いて意味を理解することを通して、分析的に文法を理解し、自分の思考も表現できるようになる。
- ⑤ 古代から文化をつくってきた思考方法は、多くの場合、現実に対応するためのモデルを作るもので、あまり分析的ではなかった。

問六 空欄 A 〃 空欄 E に入れるのに最も適当なことを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | | | | | |
|------|---------|--------|--------|--------|----------|
| 空欄 A | ① ところが | ② こうして | ③ それゆえ | ④ しかも | ⑤ それでも |
| 空欄 B | ① しかし | ② たとえば | ③ さて | ④ そのうえ | ⑤ だから |
| 空欄 C | ① すると | ② ところが | ③ こうして | ④ 逆に | ⑤ それでも |
| 空欄 D | ① というのも | ② それゆえ | ③ つまり | ④ むしろ | ⑤ それに対して |
| 空欄 E | ① このように | ② しかも | ③ たとえば | ④ すなわち | ⑤ むしろ |

(27)

(26)

(25)

(24)

(23)

問七 傍線部7「日常的なモデル・比喩的な思考」とあるが、筆者はこのような「思考」について、どのようなことを述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(28)

① 論理的に分析して思考していく過程で、必要に応じて身近な経験からモデルを作り、それをアナロジカルに現実に応用して、新たなアイデアを生み出している。

② 身近な世界からモデルが作られ、そのモデルを比喩的な能力、すなわち物事を想像力によってアナロジカルに見る能力を用いて、現実に応用して、現実の物事を捉え、判断している。

③ アナロジカルな思考に、論理らしい論理はないが、アナロジーによってできあがった身近なモデルは、現実にかかる物事に適用するには、ちょうどよいものである。

④ 子どものころに、すでにモデルをアナロジカルに現実に応用していく思考方法は可能だが、それはあくまでも、論理的につきつめた分析的な思考ができるようになる前段階としての思考方法である。

⑤ 身近な問題解決を図るときに、モデルがすぐに意識され、そのモデルとのアナロジーによって問題について考えがちだが、経験的な妥当性があるとしても、それほど深い論理構造は持たないので、注意が必要である。

II

次の問いに答えなさい。(四〇点)

問一

A～Cの傍線部と同じ漢字を使うものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A うらやむ

① ボンノウを断つ

② シットする

③ イフの念

④ レイゾクする

⑤ センボウのまなざし

B おちいる

① ダラクする

② モシユを務める

③ 首都のカンラク

④ 航空機のゲキツイ

⑤ 偉人のイツワ

C まかなう

① ブイヒツを読む

② ベントウを持参する

③ ジエイギョウ

④ シユウワイザイ

⑤ シンパン会社

(29)

(30)

(31)

問二

A～Cの熟語の読みとして適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A 市井

① シイ

② シセイ

③ イチイ

④ イッセイ

B 完遂

① カンスイ

② カンシヨ

③ カンヒ

④ カンツイ

C 知己

① チミ

② チナ

③ チキ

④ チイ

(32)

(33)

(34)

問三

A～Cの語の対義語として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A 安堵あんど

① 危惧

② 懷疑

③ 遠慮

④ 不審

⑤ 非難

B 正統

① 革新

② 異質

③ 異常

④ 邪道

⑤ 異端

C 回収

① 頒布

② 給付

③ 配給

④ 配分

⑤ 提供

(35)

(36)

(37)

問四 傍線部の語の使い方が適当なものを、次の①～⑦の中から二つ選びなさい。

- ① 衆知を集める。
- ② 社長の決裁を仰ぐ。
- ③ 全土から兵を徴収する。
- ④ 父は回顧趣味だ。
- ⑤ 議論が平衡線をたどる。
- ⑥ 議会で法案を裁決する。
- ⑦ 気候文を読む。

(38)

(39)

問五 A～Cの慣用語の意味の説明として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A 雨降って地固まる

- ① 大きな問題が起こった後には、わだかまりが解消されること。
- ② 問題が起こった後に、かえって以前より物事がうまくいくようになること。
- ③ 問題に対処するために、相手の結束が強くなり、より手ごわくなること。
- ④ 悪いことが続いた後には、必ずよい状況になっていくということ。
- ⑤ 問題が起こったとしても、その結末は意外なものになりうるということ。

(40)

B 小田原評定

- ① 部外者が口を挟んで議論を混ぜ返している話し合いのこと。
- ② 権力のある者の意向次第で、結論が決まってしまう話し合いのこと。
- ③ 各自が勝手な意見を言うだけで、まとまりのない話し合いのこと。
- ④ 短時間で、だれもが納得するような結論に至る話し合いのこと。
- ⑤ 意見が分かれて、いつまでも結論が出ない話し合いのこと。

(41)

C 紺屋の白袴しろはかま

- ① こだわりを捨てて、時と場合に合った服装をすること。
- ② 人の欠点を指摘するばかりで、自分自身の欠点は顧みないこと。
- ③ 気分を変えて、いつもと違うことをしてみることに。

(42)

- ④ 人目を気にして、自分本来の持ち味を出せなくなること。
- ⑤ 人のことばかりに忙しく、自分自身のことをする余裕がないこと。

問六

例文 A ～ C の傍線部と意味用法が最も近いものを、次の各群の ① ～ ⑤ の中からそれぞれ一つ選びなさい。

例文 A 語り物の流れをひく。

- ① 小説の一節をひく。
- ② 注目をひく。
- ③ 災害が尾をひく。
- ④ 貴族の血をひく。
- ⑤ 辞書をひく。

(43)

例文 B 彼に依頼したのが間違이었다。

- ① 荷物を運ぶのを手伝う。
- ② 学生の多くが食堂を利用する。
- ③ 水の流れる様子をじっと見る。
- ④ もっと大きいのがほしい。
- ⑤ 春の宮島も美しい。

(44)

例文 C 温かいうちに食べたほうがよい。

- ① 運も実力のうちだ。
- ② 三人のうち一人が外国人だ。
- ③ 会は成功のうちに終了した。
- ④ 見る見るうちに大きくなった。
- ⑤ 胸のうちを明かす。

(45)

問七

例文の傍線部と同じ種類の敬語を、次の ① ～ ⑦ の中から二つ選びなさい。

例文 最後のお願いに参りました。

- ① 御壮健で何よりです。
- ② 本日はお日柄もよく。
- ③ 早急に御連絡差しあげます。
- ④ お召し物をお預かりします。
- ⑤ 令嬢のお迎えをよろしく。
- ⑥ 御協力を賜り、ありがとうございます。
- ⑦ 御挨拶が遅れました。

(46)

(47)

ご注意

1. 本書の一部あるいは全部について、発行者の許可を得ずに、無断で複写・転写することは禁じられています。
2. 本書の内容に誤り・誤字脱字などございましたら、ご連絡いただくと幸いです。

2023/7/1

発行・制作:広島国際大学入試センター

連絡先:739-2695 広島県東広島市黒瀬学園台555-36

TEL: 0823-70-4500 FAX: 0823-70-4518

Mail: HIU.Nyushi@josho.ac.jp

URL: <https://www.hirokoku-u.ac.jp/>

Copyright © 2023 Hiroshima International University, All rights reserved.
